

33歳、念願の野馬追初陣



初陣に向けて練習に熱が入る
山下さん＝相馬市

▲ 5月22日 福島民友新聞掲載

24日に始まる相双地方の伝統行事「相馬野馬追」で、前相馬市建設部長の山下茜さん(33)＝仙台市、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所調査課長＝が、宇多郷騎馬会から初陣を飾る。今年から「未婚の20歳未満」という女性騎馬の出場条件が撤廃され、念願をかなえた。「立派な姿を見せることで感謝の気持ちを伝えたい」。本番を間近に控え、練習に一層熱が入る。

山下さんは高知県出身。東京大学大学院修了後、国土交通省に入省し、23年7月に相馬市建設部長に就任した。その直後に開かれた野馬追で、甲冑をまとった勇壮な騎馬武者姿に魅了された。国交省から派遣の歴代部長は出陣してきた伝統もある。「いつか自分も」。条件の緩和を期待し、昨年11月から馬に乗り始めた。最初は背にまたがるのにも

前相馬市建設部長 山下さん「勇姿見せ感謝」

四苦八苦したが、じかに伝える馬のぬくもりにも心も癒やされた。早朝から馬房の掃除や餌やりに積極的に取り組み、「相棒」との距離を縮めた。馬場に向かえば懸命に手綱を引き、くらの上で姿勢を整える。「いつもと違う視界が広がる」。落馬も経験したが、背に揺られるのが楽しくなった。週末は仙台と相馬を往復する生活を続ける。今年4月に国交省に復帰するまで相馬で働いた期間は1年9カ月。短い間だったが「多くの人の優しさや温かさ」に助けられた。大好きな地になった。女性の出場条件撤廃については「時代の流れもあると思う。野馬追が長く続くきっかけになれば」と受け止める。「準備は万全。性別に関係なく、出るからには役目を全うする」。伝統の重さをかみしめ、地域への感謝を胸に憧れの舞台に臨む。

山下さんが野馬追の初陣を飾るのはどんな思いがあり、どのような変化があったからですか？

山下さんは、野馬追本番に向けどんな苦労をし、どのような準備をしていましたか？

山下さんの野馬追参加への背景や決意などを踏まえ、あなたの考えをまとめてみましょう。